

第2回 鳥取市市民自治推進委員会 議事概要

1 日 時 平成25年6月26日(水) 15:00～17:20

2 場 所 鳥取市役所本庁舎 4階第2会議室

3 出席者

(1) 委 員 池井委員長、渡邊副委員長、佐藤委員、上田委員、福島委員、佐々木委員、岡村委員、四宮委員、高塚委員(順不同) 委員出席者 9名

(2) 鳥取市 安本協働推進課長、雁長協働推進課係長、竹内協働推進課主任

(3) 傍聴者 なし

4 議 事

(1) 審査事項

①市民まちづくり提案事業助成金協働事業部門(行政提案型事業)交付申請団体の審査について

《2団体の申請書類及び公開プレゼンテーションによる審査》

【申請団体】

- 1 鳥取とうふちくわ総研
- 2 アート・スタジオ_fuka-hire

(2) 協議事項

①市民活動表彰制度について

《事務局説明》

(委員長)

協議事項の①市民活動表彰制度について、事務局説明をお願いします。

《事務局説明》

(委員長)

今の説明について、ご質問ご意見がありますか。特にご質問がないようならば次に入らせて頂きます。

②フォーラムについて

《事務局説明》

(委員長)

それでは、今の説明についてご質問・ご意見があればお願いします。それから、この問題については、今日、委員会としての結論を出しておかないと、担当課としての事務が進まないのので、ここで意見集約していただきたい。行財政改革課に資料にある見解について確認しておいていただきたい。

(委員)

財政担当課が言っている改善努力をしたうえでというのはどういう意味なのか。単独でフォーラムやったときに、集まる参加者の頭数が少ないという意味か、フォーラムの内容についての政策判断としてのことなのか、どういう主旨のことなのか。

つまり、参加した頭数が多いか少ないかではなく、集まった参加者が、どういう反応を示しているのか。前回、大方の委員さんが今までの経過を踏まえて、特に河原の時の熱意を感じて、単独に戻した方がいいのではないかという判断になった。協働推進課から財政担当課にうまく伝わっていないのではないか。

(事務局)

財政担当課は参加人数を指標としての考え方ではない。相乗効果を出そうという観点から2つの事業をこれまでの経過のなかで1つにまとめて取り組んでみたが、もうちょっとこうしたら効果があがるのか、そういう検討をしてみるべきではないのかなという考え方を持っている。他に工夫をしてみる余地は無かったのかという見解である。

(委員長)

河原の例でも、そこで出てくるのは行政と地域との一体化した地域おこしのテーマが議論にもなり、それからそこでのフォーラムの内容にもなっている。そこに市長が来られて、地域おこしに関する考え方を皆様方に開示されていくという、市長の出番も十分にあるし、ここで我々がフォーラムを「お願いします」と委員会で申し出るものではなく、市の方が逆に「開きたいのでお願いします」というのが筋だと思う。PRの機会はいらぬということなのか。単なる表彰式であれば、むしろフォーラムの中でもやる必要が無い。そういうことではないと思う。鳥取地域だけでなく、青谷や鹿野に出ていき、それについて民間の人たちが色々議論するという中で、地域についても市政に参画していくということが出てくる。その場所には市の幹部職員も出て行って、実際の現在やっている行政についての問題点など話してもらうという事もあるし、地域の人たちはやはり自分達は市によって色々守られている、生活の向上を図ってもらっているのだなということを感じて、自分達の色んな計画をその場にもってきて、話し合いながら解決を見付けていく。河原で開催したときの雰囲気は多少寒かったが、そう悪いものじゃなかった。ああいうのが根付いていくことが、地域おこしのためには大事だと思う。

(委員)

穿った見方をすれば、財政担当課の判断は費用対効果。要するに、参加人数と予算との対比でもって、一人当たりいくらの予算効果があったと数字で割り切っている。これまでのフォー

ラムではアンケートを取っているはずだから、どういう内容であったか財政担当課にきちんと説明してほしい。

(委員)

前回皆でおととしのフォーラムについて評価をし、当時の雰囲気を使い返して今後、どうしたらいいかということ話し合ったところだが、今回の提案をみると、財政的な問題を前面に出されたがために、ちょっとおかしいのではないのかな、という風を感じているので、私も先ほどのご意見に同感です。いずれにしても、おととしの河原でのフォーラムは、私は鳥取地域の集まりには出たことがあるが、新市域の集まりには出たことがなかったので、まったく雰囲気が違うように感じた。もっと繋がりを求めて、繋がりをはっきり確認しながらやっている感じがし、これこそが、これからまちづくりの中心になるべきで、これを取り入れなければいけない。そのためには日頃の活動をどうやったらいいのか、本当に反省をした。今年もフォーラム単独でやってみたらという気持ちでいる。

(委員)

私は団体として市民活動フェスタには参加したことがある。今言っておられたフォーラムとフェスタとはちょっと違うと思うので、確かに市民活動フェスタは、すごくにぎやかで、色々な団体の発表の場であり、やはり町おこしとかそういうことについては、単独で事業をした方が、来られる人もわかりやすいと思う。

(委員)

前回の話し合いの時に出了た論点が2つあって、1点は場所の問題でした。例えばさざんか会館だけで開催するのでは地域に根ざした取り組みになりにくいのではということと、もう一点が、フォーラムで取り組みたい内容が合同でやる場合、どうしても薄れてしまうというご意見が多かったように思う。2点の論点で沢山の意見が出たと思う。

(委員)

私は前回のフォーラムなど、参加したことはないが、結局、来場者の世代をどのように広げていくかという部分でわからないところがある。まちづくりという意味では、将来に繋げるためにやることだと思うので、内容を若者向けの部分を取り入れていった方がいいのかなという気持ちで今までの話を聞いていた。フォーラムという名称だと、若者からしたら、堅いイメージがあるので、市民活動フェスタと一緒にやるのもいいと思う。

(委員長)

フェスタと一緒にやったらどうだという意見でした。

(委員)

フォーラムもフェスタも、全体像が見えていないので、何とも言えないが、資金繰りの問題だけで一緒にするのは良くない。先程、フェスタとフォーラムでは毛色が違うという話もあったので、それを一緒にやるかどうかを考えたほうがいいような印象を受けた。

(委員)

地域の活性化という点であるのは、今各自治会でやっているまちづくり協議会がそれにあたる。まちづくり協議会と市民活動団体は違うわけです。まちづくり協議会は地域全体であるし、市民活動団体はそれぞれの市民とか目的があった人が集まって、一つの目的に向かってやられることなんで、そうなりとやっぱり、どうしても限定されてきますよね。

(委員)

おとしのフェスタに参加してみたんですね。確か12月にさざんか会館で行われたと思うが、そのとき経験した流れであれば、地域活動されているテーマコミュニティの団体の表彰が終われば、表彰会場からはみなさんが引き上げられ、バザーやコミュニティ活動をしている団体のブースに移ったりしていた。去年のフェスタもそういう形であれば、地域コミュニティについて、どの程度の啓発になっていたのか。地域ごとの子供の交通安全、高齢者の病院通い、買い物の手助け、それらのコミュニティ活動の課題をどう解決したらいいか、それを啓発していくことが我々委員の一つの任務ではないか。また、その背景には自治基本条例があり、よりよいまちづくりの中心はみなさんですよという啓発をやってきた。そこにフォーラムを単独とした意義がある。

(委員長)

皆さんのご意見を頂きましたが、補正予算が計上されるのは9月の終わりになる。それから委員会を立ち上げるとなるとフォーラムの開催は物理的に難しいのではないかと。

(事務局)

お示したスケジュールがこの期間内で行う最短のものであり、通常委員会にフォーラムの実行委員会の集まりが必要になるかと思う。

(委員)

23年度の活動報告をみると最後の第3回実行委員会が9月に開催されている。時間的なことがタイトで、仮になんとか形を整えるにしても、目的とするような事業ができるかが危惧される。

(委員長)

地域コミュニティを巻き込まないと、フォーラムを開催する意味がないので、そうすると、そういう地域に準備を進めてもらうとなると、10月や11月にお願いしても、無理ではないかと。

(委員)

スケジュール的にきついように思える。

(事務局)

財政担当課は、分離での開催を今後認めないという考え方ではない。特に、予算は当初予算主義の部分があるので、一旦始まった中で、年度中途の方針変更というのはどうなのかという所が引っ掻かっているようだ。今後、分けて開催することに対して一切否定をするというような考えではないということは確認している。

(事務局)

財政担当課の担当との話において、改善努力というのは人数の事ではありません。絶対、フォーラムの単独開催を認めないということでもありません。今回昨年フェスタが12月開催で、当初予算要求後に開催しておりますので、反省点を踏まえて当初予算を組むということは出来ていないという状況もありますが、この度のスケジュール、もし補正で行くとすれば、こういうようなタイトなスケジュールとなるということです。したがって、補正でというご議論も一つではありますが、フォーラム単独開催に向けてお示ししました案について、26年度このフォーラムをやって行くにあたっての、委員さんの任期も2年です。1年目で、新しい委員さんもおられますので、フォーラムの中身とか、フェスタの中身とか、そういうものがまだ明確にご理解頂いていない委員さんもおられるかと思えます。その中での議論ですので、例えばフォーラムをやるに当たって、今お示ししています実施体制ですとか、規模、地域をどこにするのか、一番の中身の内容ですね、単純な表彰ではなくて、地域の課題解決に向けての委員会が果たす役割とか、啓発の場になる、どのような場になるのかなということ、例えばの話で来年度に向けてのご議論をして頂くことが可能であれば、今後継続してその中身を詰めていって、今、こういうスケジュールですと、中身が詰まらないうちに形だけやってしまうというご意見もありますし、中身を今年度詰めていって、来年度は早いうちからご議論頂いて当初から予算を組めれば、23年度は11月の初めにフォーラムを開催しております。10月とか11月とかは、他のイベントと重なる時期であります。早めに実行委員会を立ち上げて、西部地域であれば、その地域の団体、河原においても、地域の方もおられましたけど、そこで活動するNPO的な方もおられたと思えます。その方とのパネルディスカッションというようなこともあったという風に、資料4の4ページを見ますとパネルディスカッションのパネリストということであがってきておりますが、学生ということで、えんがわ事業実行委員会、経済界の若者ということで、グリーンツーリズム用瀬の方も参加して頂いているようです。必ずしも市民活動団体がちょっと異質なものか、ということもあるのですが、その方とのディスカッションもやっているのが実体のようなフォーラムになっておりますので、今後、開催に向けてのご議論をして頂ければと考えております。

(委員長)

事務局側の考え方も解りましたし、いま、色々議論された中で一緒にやってもいいという方もおられますが、全体としては、単独ということとなります。今年度については時間が無いですし、来年度は絶対単独にするということで、今年は一緒ということではいかがでしょうか。来年度の予算時期までに予算要求の内容を含めて議論をして、当初予算に出して貰うという事で、いかがでしょうか。

(委員)

フォーラム開催までのスケジュールがきつい。パネラーのお願いにも時間がかかる。来年度、当初予算に組んでもらって準備を進めて行くということで、委員長の意見に賛同します。

(委員長)

そういう事にして頂きたいと思います。事務局よろしいでしょうか。

(事務局)

予算の時期までに、ある程度柱をご協議頂くという事で、相談をさせて頂きたいと思います。

<市民まちづくり提案事業助成金協働事業部門（行政提案型事業）交付申請団体の審査結果について>

《事務局結果報告・委員コメント》

6 閉会 17:20